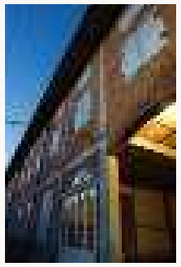
開館情報・アクセス

群馬県立世界遺産センター「セカイト」



［場　所］富岡市富岡1450-1
［交　通］公共交通機関／上信電鉄上州富岡駅から徒歩約1分
　　車／上信越自動車道富岡I.C.から約10分、無料駐車場から徒歩約3分
［駐車場］上州富岡駅東駐車場（無料）
［時　間］9時～17時
［休　日］3月～11月：毎月最終水曜日、
　　12月～2月：毎週水曜日、12月29日～31日
［料　金］無料
［問合先］TEL0274-67-7821

富岡製糸場



［場　所］富岡市富岡1-1
［交　通］公共交通機関／上信電鉄上州富岡駅から徒歩約15分
　　車／上信越自動車道富岡I.C.から各市営駐車場まで約10分、
　　有料駐車場から徒歩約10分、無料駐車場から徒歩約20分
［駐車場］宮本町駐車場（有料）、上州富岡駅東駐車場（無料）
［時　間］9時～17時（受付は16時30分まで）
［休　日］12月29日～31日
　　※点検・整備などで臨時休場となる場合があります。
［料　金］大人1,000円、高校・大学生（要学生証）250円、小・中学生150円
［問合先］富岡製糸場内総合案内所　TEL0274-67-0075

田島弥平旧宅



［場　所］伊勢崎市境島村2243
［交　通］公共交通機関／JR高崎線本庄駅からタクシー約20分、
　　東武伊勢崎線境町駅からタクシー約15分、JR上越新幹線
　　本庄早稲田駅からタクシー約25分、
　　東武伊勢崎線境町駅からバス約20分
　　車／関越自動車道本庄児玉I.C.から無料駐車場まで約20分、
　　無料駐車場から徒歩約10分
［駐車場］島村蚕のふるさと公園駐車場（無料）
　　田島弥平旧宅案内所駐車場（無料）
［時　間］9時～16時
【注意】個人宅で現在も居住しているため、見学の際はご配慮ください。
　　見学範囲は座及び桑場1階。
　　毎月第3日曜日に、主屋1階上段の間（奇数月）と別荘（偶数月）を交互に公開。
　　その他の建物内部は非公開。
［休　日］12月29日～1月3日
　　ただし、案内所は年末年始のほかに臨時休館になる場合があります。
［料　金］無料
［問合先］田島弥平旧宅案内所　TEL0270-61-5924

高山社跡



［場　所］藤岡市高山237
［交　通］公共交通機関／JR高崎線新町駅または
　　JR八高線群馬藤岡駅からバス約35分、
　　JR八高線群馬藤岡駅からタクシー約25分
　　車／上信越自動車道藤岡I.C.から
　　無料駐車場まで約20分、
　　駐車場から徒歩約5分
［駐車場］高山社跡駐車場（無料）
［時　間］9時～17時（受付は16時30分まで）
［休　日］12月28日～1月4日
［料　金］大人500円（高校生以下、藤岡市在住者は無料）
［問合先］高山社情報館　TEL0274-23-7703

荒船風穴

［場　所］下仁田町南野牧甲10690-2
［交　通］公共交通機関／上信電鉄下仁田駅から
　　観光タクシー約30分
　　車／上信越自動車道下仁田I.C.から
　　荒船風穴駐車場（P1）まで約45分、
　　駐車場（P1）から徒歩約15分
【注意】急勾配な山道のため、動きやすい服装でお越しください。
［駐車場］P1／荒船風穴駐車場（無料）
　　P2／荒船風穴駐車場（無料）
［時　間］9時30分～16時（受付は15時30分まで）
［休　日］12月～3月は冬季閉鎖
（下仁田町歴史館では、荒船風穴に関する資料を展示しているのでご利用ください。）
［料　金］大人500円（町民・高校生以下は無料）
［問合先］下仁田町歴史館　TEL0274-82-5345



画像提供：富岡市（斜めから見た東置繭所）、藤岡市教育委員会（長屋門）、下仁田町教育委員会（荒船風穴、風穴から吹き出す冷気、風穴の全体模型）、群馬県立日本絹の里（蚕種、蚕）

※掲載している情報は、令和8年8月現在のものです。









国際連合教育科学文化機関
富岡製糸場と絹産業遺産群
世界遺産登録年:2014年

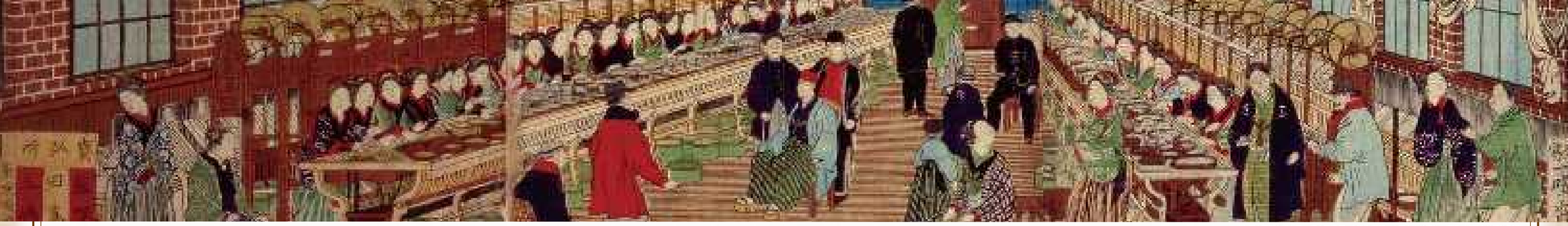
世界遺産

富岡製糸場と絹産業遺産群

Tomioka Silk Mill and Related Sites

あわせて知りたい
■日本遺産　かかあ天下 ーぐんまの絹物語ー
■ぐんま絹遺産

群馬県



「上州富岡製糸場之図 一曜斎国輝 画　制作年不明」富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館 所蔵

富岡製糸場と絹産業遺産群とは

－世界遺産としての価値－

「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の「技術交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産です。
日本が開発した高品質な生糸の大量生産技術は、かつて一部の特権階級のものであった絹を世界中の人々に広め、その生活や文化をさらに豊かなものに変えました。富岡製糸場と3つの養蚕に関わる資産（田島弥平旧宅・高山社跡・荒船風穴）は、そのことを今に伝える証なのです。

－相互連携により良質な繭を開発・普及－

「富岡製糸場と絹産業遺産群」を構成する4資産は、それぞれが技術革新の場であるとともに、相互に連携し技術の交流を行っていました。特に富岡製糸場が良質な繭を大量に確保するために行った蚕の品種改良運動の際は、田島家・高山社・荒船風穴が試験飼育や蚕種製造、飼育指導、蚕種貯蔵など優良品種の開発と普及に協力しました。



富岡製糸場



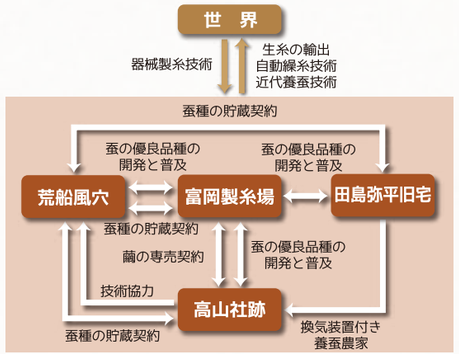
田島弥平旧宅



高山社跡



荒船風穴



世界遺産とは

ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）がつくる世界遺産リストに登録された、国や民族を超えて共有すべき「顕著で普遍的な価値」をもつ人類共通の財産です。世界遺産には、文化遺産（城や神殿、街並みなど）、自然遺産（山、渓谷など）、複合遺産（文化と自然両方にあてはまる遺産）があります。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は文化遺産として、平成26年（2014）6月に世界遺産に登録されました。

「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録までの歩み

2013年	1月	国が推薦書をユネスコに提出
	9月	ユネスコの諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）委員による現地調査
2014年	4月	イコモスによる登録勧告
	6月	ユネスコ世界遺産委員会で世界遺産に登録



産業遺産

古い工場や炭鉱、運河や鉄道などをはじめ、農業や林業、水産業に関する遺産などです。例えば、イギリスの世界で一番古い鉄の橋、フランスの塩を作る工場やドイツの鉄を作る工場などです。これらは、人類の歴史を大きく変えた産業革命に関係した遺産などです。ヨーロッパの国々を中心に世界遺産にも数多く登録されています。富岡製糸場は、日本を代表する産業遺産です。

絹産業の歴史

絹は紀元前の中国で生産が始まり、のちに日本やヨーロッパに伝えられました。19世紀のヨーロッパで器械製糸が始まりましたが、蚕の伝染病の流行により原料不足が起きました。このころ開国した日本は器械製糸技術を導入し、明治5年（1872）にはモデル工場として富岡製糸場が建設され、国内の製糸業が近代化しました。また、独自に養蚕の技術革新も起こり、原料となる繭の大量生産に成功しました。製糸も継続的な技術革新が進められた結果、日本は20世紀初めには世界一の生糸輸出国となり、高級繊維の絹をより身近な存在に変えました。さらに第二次世界大戦後は、生糸生産のオートメーション化にも成功、自動繰糸機は全世界に輸出されました。日本で開発された養蚕製糸技術は、今日でも世界の絹産業を支えています。



絹産業　織物ができるまで～養蚕・製糸を学ぼう～

生糸は、桑を食べて成長する蚕（カイコガの幼虫）が作る繭を原料としています。
桑を育て、蚕を飼って繭を作らせるのが「養蚕業」です。そして、この繭から生糸を作るのが「製糸業」です。数個から数十個の繭糸を合わせて1本の生糸を作ります。この生糸をさらに加工し、染め、織ることで絹織物が作られます。

①養蚕

蚕の餌の桑を育て、蚕を飼育し、つくらせた繭を出荷します。



蚕種



蚕



繭

②製糸

乾燥・保管した繭から生糸を製造します。



自動繰糸機



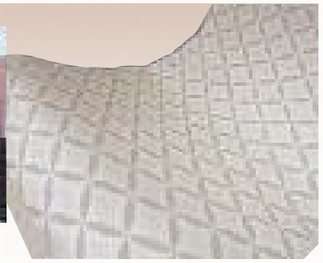
生糸

③織物

生糸を加工後、染め、織り、反物などに仕上げます。



絹織物





世界遺産

富岡製糸場と絹産業遺産群



富岡製糸場

フランスの技術を導入した日本初の
本格的官営模範器械製糸工場

明治5年（1872）に明治政府が設立した官営の器械製糸工場です。民営化後も一貫して製糸を行い、製糸技術開発の最先端として国内養蚕・製糸業を世界一の水準に牽引しました。また、田島家、高山社、荒船風穴などと連携して、蚕の優良品種の開発と普及を主導しました。和洋技術を混交した工場建築の代表であり、長さ100mを超える木骨煉瓦造の東置繭所、西置繭所や繰糸所など、主要な施設が創業当時のままほぼ完全に残されています。
平成26年（2014）12月に、繰糸所、東置繭所、西置繭所が国宝に指定されました。





見どころ

歴史を物語る壮大な建物群

富岡製糸場には、創業当初の明治初期の建物が、ほぼそのままの形で残されています。



繰糸所

繭から生糸を作る施設で製糸工場の中心となる建物です。長さ約140ｍもある長大な木骨煉瓦造建物で、内部には操業停止時の自動繰糸機が保存されています。



「撮影：瀬脇武」

西置繭所

乾燥させた繭を貯蔵しておくために造られた長さ約104mの２階建ての倉庫です。現在、製糸工程に関する道具や工女たちの暮らしがわかる資料などを展示しています。

田島弥平旧宅

瓦屋根に換気設備を取り付けた
近代養蚕農家建築の原型



優良な蚕種（蚕の卵）を生産するのに適した蚕の飼育法「清涼育」を大成した田島弥平の旧宅で、主屋は文久3年（1863）に建てられた住居兼蚕室です。間口約25m、奥行約9mの瓦葺き総2階建てで、初めて屋根に換気用のやぐら（越屋根）が付けられました。この構造は、弥平が「清涼育」普及のために著した、『養蚕新論』『続養蚕新論』によって各地に広まり、近代養蚕農家建築の原型になりました。

見どころ

蚕種製造に関わる各種建造物

田島弥平旧宅には、住居兼蚕室である主屋をはじめ、蚕種製造に関わる各種建造物が残されています。



桑場



井戸

高山社跡

日本の近代養蚕法の標準「清温育」を
開発した養蚕教育機関



明治16年（1883）、高山長五郎は、通風と温度管理を調和させた「清温育」という蚕の飼育法を確立しました。翌年、この地に設立された養蚕教育機関高山社は、その技術を全国及び海外に広め、「清温育」は全国標準の養蚕法となりました。明治24年（1891）に建てられた住居兼蚕室は、「清温育」に最適な構造で、多くの実習生が学びました。

見どころ

風と火を操る蚕室

高山社跡には、「清温育」を行うための理想的な住居兼蚕室や分教場時代の施設が残されています。
※住居兼蚕室は修復工事中。世界遺産の修復工事が見られるのは今だけです。



蚕室



長屋門

荒船風穴

自然の冷気を利用した
日本最大の蚕種貯蔵施設



明治38年（1905）から大正3年（1914）頃に造られました。積み重なった岩の隙間から吹き出す冷風を利用した蚕種（蚕の卵）の貯蔵施設で、冷蔵技術を活かし、当時年1回だった養蚕を複数回可能にし、繭の増産に貢献しました。3基の風穴があり、貯蔵能力は国内最大で、取引先は全国43道府県をはじめ朝鮮半島にも及びました。

見どころ

夏でも冷気が吹き出す石積み

荒船風穴の周辺は、夏でも2℃前後の冷風が吹き出しています。この冷風を利用するために、山の斜面に石積みを築き、そこに土蔵造りの建屋を設け蚕種貯蔵風穴としました。



風穴から吹き出す冷気



風穴の全体模型

日本遺産

日本遺産とは

地域の文化や伝統の魅力をひとつの物語として紹介したものが日本遺産です。物語を読み解くように複数の有形・無形の文化財を訪れることで、これまでとは違った歴史の奥深さや地域の魅力を発見することができます。平成27年から文化庁が始めた制度で、第1回認定の18件のひとつとして、「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」が日本遺産となりました。

JAPAN HERITAGE
日本遺産



永井いと像
（片品村）

永井流養蚕術を確立した永井紺周郎の妻いとが、養蚕について講義を行う姿を描いた掛け軸です。机に置かれた数枚の種紙から左手で一枚取り、右手の手振りを交えて真剣に話す表情がうかがえます。

かかあ天下ーぐんまの絹物語ー

かつて群馬では、女性が養蚕や製糸、織物で家計を支えていました。また、近代になると、女性たちは製糸工女や織手として活躍しました。働き者の女性達を男性たちは、「おれのかかあは天下一」と褒めたたえ、これが「かかあ天下」として上州名物になりました。

「かかあ天下ーぐんまの絹物語ー」は、こうした「かかあ」たちが支えた群馬の絹産業を13の構成文化財で紹介しています。

13の構成文化財



永井流養蚕
伝習所実習棟（片品村）

永井紺周郎の妻いとが夫亡き後に意志を継いで設立。「農家の財布の紐はかかあが握るべし」と説きました。



富沢家住宅（中之条町）

江戸後期の大型養蚕農家で、地元で名主を代々務めた旧家です。２階を養蚕に使い、女性達が活躍しました。



六合赤岩重要伝統的建造物群
保存地区（中之条町）

明治後半から昭和中期に養蚕が盛んだった地区で、集落の発展は女性達の養蚕や織物に支えられました。



旧小幡組製糸
レンガ造り倉庫（甘楽町）

大正15年建設。養蚕農家の各家の女性が座繰りでひいた生糸を持ち寄り、品質をそろえて共同販売しました。



甘楽町の養蚕・
製糸・織物資料（甘楽町）

大正初期には約７割の世帯が養蚕農家だった甘楽町で使用された養蚕・製糸・織物道具や資料333点です。



甘楽社
小幡組
由来碑
（甘楽町）

「村に養蚕をしない家は無く、製糸をしない女性は無い」という意味の文がある貴重な史料です。



白瀧神社（桐生市）

京都から桐生に絹織物の技術を伝えたとされる白瀧姫の伝説は絹商人や機織りをする女性達からの信仰を集めました。



旧模範工場桐生撚糸
合資会社事務所棟（桐生市）

明治から戦前まで稼働した大規模撚糸工場で、工場内に学校を置くなど女性従業員に技術と教育を施しました。



桐生市桐生新町伝統的
建造物群保存地区（桐生市）

絹織物業を中心に発展した町の形態として商家や織物工場などが残り、織り子※の暮らしが偲ばれる場所です。

※「織り子」‥‥機織りに従事する女性のこと。



後藤織物（桐生市）

熟練の女性従業員が活躍し、帯地などの織物生産を行っていた工場で、桐生織物の発展に大きく貢献しました。



織物参考館“紫”（桐生市）

高級織物“お召し”の技術を今に伝え、手織り機などの道具を公開し、説明や機織り体験などの指導をしています。



桐生織物会館旧館（桐生市）

かつて女性職員が業務を支えた桐生織物同業組合の事務所でした。現在は記念館として展示・販売をしています。

ぐんま絹遺産

ぐんま絹遺産とは

群馬県は、古くから絹産業の盛んな地であり、たくさんの絹に関する文化財などが残っています。群馬県では、県内に残る養蚕・製糸・織物などの絹産業に関わる建造物や民俗芸能などを「ぐんま絹遺産」として登録し、「ぐんまのたからもの」として保存活用を図っています。

世界遺産「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、ぐんま絹遺産の代表的な存在なのです。

養蚕・製糸に関するもの



旧関根家住宅（前橋市）

赤城南麓に多くみられた典型的な養蚕農家で赤城型民家と呼ばれます。



日本基督教団島村教会（伊勢崎市）

蚕種業者の田島善平らが蚕種の輸出で横浜に行った際にキリスト教に触れ、現在の場所に建築されました。



下南室太々御神楽の養蚕の舞（渋川市）

蚕の掃き立てから繭の収穫まで、養蚕飼育の手順やしぐさを丁寧に表現した神楽の演目です。



旧碓氷社本社事務所（安中市）

碓氷社は明治11年（1878）に組織された製糸組合で、組合員がこの本社に生糸を持ち寄り、統一規格で製品を仕上げ、安定した品質と価格を実現しました。



薄根の大クワ（沼田市）

ヤマグワでは日本一の巨木で、樹高約13m、根本周囲約5.7m、樹齢は1,500年と推定されています。地元では「養蚕の神」として祀られてきました。



旧新町紡績所（高崎市）

明治10年(1877)に操業を開始した国内最初の官営屑糸紡績工場です。製糸に適さない屑糸や屑繭の絹糸紡績を行っていました。※原則非公開

織物に関するもの



彦部家住宅
（桐生市）

主屋は、江戸時代初期の民家として、関東地方でも最古級の建物です。主屋の北側は、江戸時代から染織工場として使用されていました。



旧株式会社
金芳織物工場（桐生市）

明治時代初頭に創業された織物工場で、工場は大正８年(1919)12月に完成し当初は６連の鋸屋根でした。外壁のレンガは東京駅のレンガを製作した埼玉県深谷市内の工場で作られています。

流通に関するもの



旧碓氷峠
鉄道施設（安中市）

敷設困難だった峠の急勾配を、歯車を利用したアプト式の登坂機構で克服した鉄道。蚕糸業が盛んな群馬と長野を結び、蚕種や繭、生糸の輸送・流通の面から絹産業の発展に貢献しました。



旧大間々銀行本店
及び土蔵（みどり市）

大間々銀行は、繭と生糸の売買の際の融資を主な目的として、明治16年（1883）に群馬県最初の私立銀行として開業しました。この建物は、大正10年（1921）に建築されたものです。